

E

ELDER

エルダーの旅便り

2005
夏秋号
6月～10月
プログラム

エルダー旅倶楽部 世界を舞台に楽しく学ぶ大人の教室

通巻172号

「新しい出会いと発見
エルダーの旅」で広がる世界

エルダー旅倶楽部では新たな出会いや学びを通して、みなさんの世界がグングン広がっていくことを願って、さまざまな講座を企画しています。実際エルダーの旅に参加したら、どのように世界が広がるのでしょうか。琵琶湖講座をコーディネートする林田久充さんのお話をもとに『世界が広がる体験』についてご紹介します。

コーディネーターからの喜びの電話

昨年暮れのある日、琵琶湖講座のコーディネーターを務める林田久充さんから事務局に電話がありました。それは「琵琶湖講座（04年11月開催）に参加してくださった方から嬉しいお手紙が届きました」という報告でした。

「エルダーの人はやっぱりすごいなあ。琵琶湖講座で学んだことをご自分の地域にまで広げて考えてくださっている…」と、それはもう手放しの喜びようでした。

エルダーの講座のなかで、いつもキャンセル待ちがでる人気の琵琶湖講座は、「歴史を学ぶだけでなく、その歴史を現代に受け継ぎ、その地で誇りをもってくらしている人との出会いをとおして豊かな時間をすごしてほしい。さらにその出会いをきっかけにご自分のくらす地域にも目を向けていただければ…」(林田さん)という願いが込められてい



琵琶湖講座(2004年11月)の講義風景

ます。林田さんは、まさに「その願いが通じた!」と感じさせてくれる手紙をうけとったのです。

ヴォーリズでつながった人と地域

林田さんを喜ばせたその手紙の送り主は北海道の北見市にすむ会員のSさん。林田さんの話を要約すると……

Sさんは琵琶湖講座(近江八幡)から帰宅後、近江八幡の人たちが誇りとしていたヴォーリズが設計した「北見・ピアソン記念館」を早速訪ねたそうです。そして同記念館内にヴォーリズ記念室を開設する計画(04/11/27開設)があることを知りました。たまたま、それに携わっている人に会い、「『こんど近江八幡を訪ねる』と聞いたので、八幡堀の再生など町づくりに励むボランティアの方々(琵琶湖講座であったボランティアグループ「ひとつぶの会」)にもぜひ会ってください」と告げたそうです。さらに、「琵琶湖講座で手に入れた資料などもお届けしようと思います」と綴られていて、大いに感激したという話でした。

もともと昨秋の琵琶湖講座は、天下統一を目前にした信長の死とともに幻のごとく消えた安土城の謎を探るとともに、近江商人の里としてしられる近江八幡の町の魅力にせまるといった講座内容で、かならずしもヴォーリズに焦点をあてた講座ではありませんでした。だからこそ余計に、講座で出あったものをご自分の日常の世界と結びつけてくださったのが林田さんは嬉しかったそうです。

さらに話を聞くと、Sさんの手紙の内容は、このヴォーリズだけにとどまりませんでした。

⇒P4に続く



元米国人宣教師の私邸だった「北見・ピアソン記念館」は、大丸百貨店心斎橋店を設計したウィリアム・メレル・ヴォーリズ氏(右上)の設計であり、北見の市民に愛され続け90年もの間、大切に保存されてきた